



横浜市立城郷小学校
明治33年6月創立

学校だより

めざす子ども像

令和4年4月25日
5月号



ともに学び、よりよい生き方を見つけ出す しろさとっ子

◆学校だよりはホームページにも掲載されています。右のQRコードからもご覧になれます◆

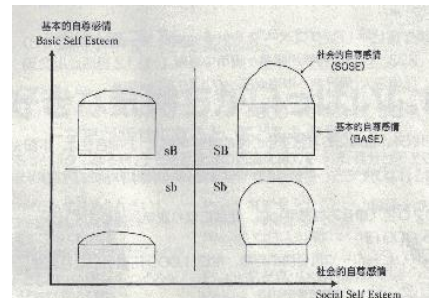


かてい

校長 三瓶 淳

4月初め頃、学区の歩道を歩いていると、私の正面に自転車に乗ったまま立ち止まっている子ども（中学年）に遭遇しました。「何をしているんだろうか？」と不思議に思いながら近づいた時にはっと気付きました。その子どもは、歩道が狭いため、自転車に乗ったまま通ろうとすると私にぶつかってしまうかもしれないと判断し、私が通り過ぎるのを待ったのです。感謝の言葉を伝えましたが、頷くとすっとなってしまいました。最近あった出来事では、授業を巡回している時に床に落ちていたポケットティッシュや鉛筆を拾って手渡すと「ありがとうございます。」と返す低学年。「〇〇先生、いらっしゃいますか？」と職員室に先生を探してやってくる子どもに「今、ここにはいないね。」と返すと、残念そうな表情をしながらも「ありがとうございました。」と言ってから戻る高学年。これらの行動は学校だけの教えでは身に付きにくく、ご家庭の教育があってこそだと感じています。挨拶や感謝の言葉、そして相手を思いやる心や行動は、ご家庭と協力しながら育てていきたいと改めて思いました。

ところで、先日人権教育に関わる講演を拝聴した時に自尊感情に関する「4つのタイプ」という話が印象に残りました。まずは「社会的自尊感情(S)と基本的自尊感情(B)」の2つに分かれるそうです。前者は『認められ、見つめられることによって熱気球のように膨らむ。他者との比較など相対的な優劣によって生まれる感情』としています。一方、後者は『体験や感情を共有することを繰り返すことで形成され、和紙を一枚一枚重ねていくように厚くなる。比較ではなく、絶対的な無条件による感情』としていました。次に4つのタイプです。



右上：自尊感情の2つの部分がバランスよく形成されている。

左上：社会的自尊感情が育っていない。いわゆるのんびり屋、マイペース

右下：社会的自尊感情が肥大している。いわゆる頑張り屋のよい子。不安を抱きやすい子。

左下：自尊感情の2つの部分が両方とも育っていない。いわゆる孤独な子。自信がない子。

基本的自尊感情は、**家庭**で育まれるものです。家族同士で同じ物や同じ事、同じ感情などを共有することで子どもたちに育まれていきます。家族でお笑い番組を見て笑い合ったり、美味しい物を食べたり、美しい景色を見たり、心に残る音楽を聴いたりしたときに「すごいよね～」と感動し合ったりすることで育まれ、決して新たな何かに取り組むことではありません。基本的自尊感情が和紙のように厚くなっていく子は、ありのままの自分を受け入れ、人は違っていいと許容できるようになります。他者にも優しくすることができるため、いじめの加害者になりにくいと言われています。家庭と学校が思いを一致させながら、今年度も子どもたちを見守っていきたいと思います。